

# 試験報告書

依頼者 日本カーヴィング株式会社

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 手指殺菌乾燥器 CL-1919

表 題 ウイルス不活化試験

2019 年 07 月 01 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

## ウイルス不活化試験

### 1 依頼者

日本カービング株式会社

### 2 検 体

手指殺菌乾燥器 CL-1919

### 3 試験概要

シャーレにネコカリシウイルスのウイルス液を滴下し、試料とした。検体内の依頼者指定位置に試料を設置し、所定時間検体を作動させた後、試料のウイルス感染価を測定した。

なお、ネコカリシウイルスは、細胞培養が困難なノロウイルスの代替ウイルスとして広く使用されている。

### 4 試験結果

結果を表-1に示した。また、使用細胞及び培地を表-2、試験条件を表-3に示した。

表-1 試料洗い出し液のウイルス感染価測定結果

試験ウイルス	対 象	log TCID <sub>50</sub> /mL
	作動前	5.7
ネコカリシ ウイルス*1	検体作動*2 約10秒後	3.3
	検体作動*2 約15秒後	2.5

TCID<sub>50</sub>: median tissue culture infectious dose, 50 %組織培養感染量

試料: シャーレ(φ60 mm)にウイルス液0.1 mLを滴下したもの

ウイルス液: 培養液を精製水で10倍に希釈

\*1 ノロウイルスの代替ウイルス

\*2 検体内の紫外線ランプの中央付近直下、約7 cmの高さに試料を設置し、検体を作動させた。

表-2 使用細胞及び培地

使用細胞	CRFK細胞[大日本製薬株式会社]
細胞増殖培地	10 %牛胎仔血清加イーグルMEM培地「ニッセイ」①[日水製薬株式会社]
細胞維持培地	2 %牛胎仔血清加イーグルMEM培地「ニッセイ」①

表-3 試験条件

試験ウイルス	<i>Feline calicivirus</i> F-9 ATCC VR-782(ネコカリシウイルス)
ウイルス液	細胞培養後のウイルス培養液を遠心分離して得られた上澄み液を精製水で10倍希釈
試料	シャーレ(φ60 mm)にウイルス液0.1 mLを滴下したもの
試験操作	検体内の紫外線ランプの中央付近直下, 約7 cmの高さに試料を設置し, 検体を作動させた。
検体作動時間	約10秒, 約15秒
試料の洗い出し	細胞維持培地, 1 mL
感染価測定方法	TCID <sub>50</sub> 法

以 上

# CL-1919 スーパークリアレディ

## 食品分析センターの殺菌効果の結果報告書

ネコカリシウイルス

1logTCID<sub>50</sub>/ml

- ・ 作動前 5.7 10<sup>5</sup>~10<sup>6</sup>の間=100,000~1,000,000
- ・ 10 秒後 3.3 10<sup>3</sup>~10<sup>4</sup>の間=1,000~10,000 致死率 99.6%
- ・ 15 秒後 2.5 10<sup>2</sup>~10<sup>3</sup>の間=100~1,000 致死率 99.9%

TCID<sub>50</sub> : median tissue culture infections dose

50%組織培養感染量

資 料 : シャーレ (Φ60 mm) にウイルス液 0.1 ml を滴下したもの

ウイルス液 : 培養液を精製水で 10 倍に希釈

ノロウイルスの代替ウイルス

検体内の紫外線テープの中央付近直下、7 cm の高さに試料を設置し、検体を作動させた。

令和 1 年 8 月 28 日の報告